



朝鮮通信使コーナー 海道をゆく

【問い合わせ】観光物産推進本部

0920(53)6111

朝鮮通信使の来日(13・最終回)

『文化度以後の通信使』

挫折した三回の来聘

齋藤弘征

一、大坂易地聘礼

聘礼は再び対馬易地
第十二代將軍家慶を祝賀する朝鮮通信使来聘を巡つて、東武(幕府)・対馬藩・朝鮮府の間で、実務協議が展開されていた頃、天保十年(一八三九)十一月、対馬藩が快哉を叫ぶ通知が江戸藩邸から届きました。

通知は、「則ち東武へ相伺い候処、諸事近例の通り対州において御例式御整え成らるべく候。」(宗家文書「奥御書札方・毎日記」)、とありました。藩庁では諸役が任命され、藩士には、忠勤精励の檄が飛ばされ、領民に対しては、個々の家屋について極端な例では、「家、見苦しく候に付解体、見かけ宜しく取り建てるべく候」(同文書)と、指令が出されました。「信使御用に差臨み」繁忙を極める藩に、鯨組の亀谷右衛門は献金・献米も行っています(同文書)。

聘礼は大坂易地に変更

ところが、来聘まであと一年ほどというところになって、対馬藩に非情過酷な通知が幕府から届きました。それは、「辛末之度御入料相高、依之当節者大坂二をいて聘礼御整被成度候。」(同文書)とありました。つまり、省幣となると思つた対馬易地聘礼は、結局莫大な費用を要したこと、大坂は日本三都の一つ、繁華で饗応も便利ということです。対馬藩は必死の抵抗を試みましたが、幕府の考えは変わりませんでした。

こうして、決定された大坂易地聘礼でしたが、両国事情により延期を重ねていくうち、祝賀を受ける

はずの將軍家慶は、嘉永六年七月に亡くなり、朝鮮通信使大坂易地聘礼は潰れてしまいました。あのペリが来航して一ヶ月余りの時でした。

二、幻となった再びの対馬易地聘礼

聘礼は対馬

十三代將軍となったのは徳川家定です。安政三年(一八五六)八月十八日、幕府からの御左右(通知)が対馬藩に届けられました。御左右は、「今般江戸屋敷御左右参来の処、御代替りに付、信使来聘の儀昨十八日御触達しの通り、御国において聘礼取り行われ、聘期の儀来る丙寅年来聘させるべき旨仰せ蒙り為させられ候。」(同文書)、とあり、屋形は興奮に包まれました。そして翌日には家臣に対して、「公儀御役々下り込み見分これ有り候とも、聊も不都合の義これなく御用筋滞りこれなく、諸手配順便全備えに至り候よう、御家老中はじめ、諸役々末々に至り一致粉骨せしめ家中の面々には質素穩便を主とし、競つて精勤せしめ候。」と、厳命が下されました。屋形では各所で祝宴も催されました。

実施年はこれより十年後の丙寅年(一八六六・慶応二年に当る)と通達されました。文化度の来聘から実に五十五年ぶりとなります。

対馬易地聘礼は中止

対馬易地聘礼の御左右を受けて、対馬藩の迎聘準備は歡喜に満ち満ちて始まりました。少ないながら幕府から二万両の下賜金も手にすることができました。藩主の江戸参勤も容赦してもらいました(同文書)。

こうしていよいよ準備作業も本格的になるうかという矢先、江戸からの報告が国元に入りました。安政五年(一八五八)のことです。それは、「公方様家定様御事 御不例の処御養生叶わせられず、八月八日薨御の旨申来る(宗家文書「家定様信使記録」)とありました。

またしても対馬藩が狂喜したであろう、「対馬易地聘礼」は幻となったのです。

三、朝鮮通信使の終焉

聘礼は三度対馬易地

家定の跡を継ぎ第十四代將軍となったのは、紀州藩の家茂でした。当然対馬藩は、新將軍襲職祝賀のための朝鮮通信使来聘事務を開始することを幕府に願ひ出ます。これに対し幕府は、丙寅年(一八六六・慶応二年に当る)実施交渉を対馬藩に指示しました。が、朝鮮府は人參の入手が困難なこと等を挙げて協議に応じませんでした。

この頃、対馬近海には異国船が頻繁に姿を現し、海辺は風雲急を告げていました。国内的にも幕藩体制は混沌とし、動揺の状態にありましたが朝鮮通信使来聘交渉は続行されていました。元治元年(一八六四)に至つて、その来聘を丙子年(一八七六・明治九年に当る)に、これまた対馬で行うことが両国で合意されました。

聘礼は挫折

しかしその慶祝を受けるはずの家茂は、慶応三年(一八六七)長州征伐の途次大坂城で病没。果たして、朝鮮通信使来聘は三度挫折し、対馬藩の期待は霧消したのです。それでも対馬藩は飽くことなく、次の將軍慶賀祝賀の通信使来聘に向けて事務を進めました。が、その慶賀が慶応三年十月、大政を奉還することにより朝鮮通信使の時代は終わったのです。(完)

長い間お読みいただきありがとうございます。昨年は最後の朝鮮通信使対馬易地聘礼から二百周年でした。私達は、朝鮮通信使来聘に象徴される両国善隣の歴史を再認識して、二十一世紀の新しい国際関係を築く礎としたいものです。連載中に厳原天道茂にお住まいの匿名の方から、外交僧玄方についての資料をお届けいただきました。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。(さいとうひろゆき・対馬市文化財保護審議会委員)